

【東北大学教授：伏見岳人先生】 「後藤新平文書調査の面白さ」を語る

令和3年3月21日(日)、奥州市「えさし郷土文化館」において、本年度第3回目の「地域研究講座2021」が開催され、岩手大学の麻田雅文先生等とともに出演し、後藤新平・斎藤實往復書簡等を取り上げ、熱く語りました。



【伏見岳人教授】日本政治外交史

東北大学大学院法学研究科・法学部
法政理論研究専攻(研究大学院)教授
＜主な著書＞近代日本の予算政治1900-
1914桂太郎の政治指導と政党内閣の確立過程

令和元年9月、奥州市開催の「椎名家資料調査シンポジウム」において、「国家指導者・椎名悦三郎の選挙区地盤」を講演。現在、「後藤新平日記」の令和3年度中の発刊に向け、鋭意執筆中。

【地域史研究講座2021】

地域史研究の最前線を学ぶ。多彩な講師陣による研究報告や討議を実施するもので、奥州市公式 YouTube チャンネルで無料同時配信。今年度最後の講座。

市教委歴史遺産課高橋学芸員に加え、麻田先生、伏見先生がリモート参加し研究成果を発表。



【後藤新平文書を調査する面白さ】

全8巻もある「正伝 後藤新平」の中に、同郷で竹馬の友でもあり、桂太郎内閣で共に大臣を務めた斎藤實があまり出てこない。後藤新平の葬儀委員長や伝記編纂会の会長を務めたにもかかわらず、斎藤實の記述は第一巻と第八巻に偏っている。少年期と晩年の中間にある長い時間の二人の交流の実態はよく知られていない。

両者の交流を示す資料は、書簡のやりとりで見出すことができる。斎藤實から後藤新平への書簡が全9通(+1通)、後藤新平から斎藤實への書簡が全27通(+4通)。政治家間では、かなりの書簡量が残っている事例である。これらの書簡が、長年の交流を物語っている。書簡は説得の論理。後藤発信の書簡が多い。それだけ、積極的な性格であった。長く交流が続いたのは、斎藤の温和な性格が関係しているのではないか。

これらの書簡を読み解くと、長年の両者の交流や旧藩意識などもわかってくる。

- 1 仙台ネットワーク ①就任時の祝賀会 ②第一回衆議院議員選挙 ③台湾での海軍人事介入
④ジーマス事件時の説得 ⑤伊達家への対応 ⑥朝鮮総督府人事への推薦
- 2 留守家管理問題 ①青年期の指南役 ②家計サポート ③手を焼く二人 ④困った末に ⑤自立とその後

仙台藩のネットワークや留守家の管理問題等、時間を忘れて聴き入りました。書簡中の「幼にして郷を同くして長にして専攻の門を異にするも、二回内閣に席を列し其縁偶然ならざるものあらん。」と、二人の関係を記した言葉が印象的でした。この内容は、藤原書店発行の次回「後藤新平の会会報」No.24に掲載される予定です。

3. 仙台ネットワーク

① 就任時の祝賀会

1906年1月7日、斎藤が海軍大臣就任（第一次西園寺公望内閣）

・資料1 旧仙台領有志で祝宴したい。富田〔鉄之助〕翁が発起人。 富田鉄之助

1898年3月2日、後藤が台湾総督府民政局長に就任

・資料2 祝賀会の開催通知。富田も発起人の一人。

5. まとめ

- ・近代資料の「個人主義」的特徴
- ・旧藩ネットワークの存在
- ・書簡の文脈を示す日記の重要性

→ 後藤新平日記への期待



【東京水沢人会】
(大正14年1月24日)
会場：丸ノ内中央亭

3/20 地元紙【胆江日日新聞】
「地域史研究講座」紹介掲載写真

(記事から)「水沢人脈で国を動かしていた」という後藤と斎藤を物語るのが左の写真。全列中央に後藤と斎藤の二人が座り、郷古潔(三菱重工社長、内閣顧問)、入間野武雄(帝国銀行頭取)、斎藤斐章(歴史家)、八幡恭助(日本棋院幹事)など中央で活躍する大勢の同郷の士に囲まれている。中には若き椎名悦三郎の姿もある。-多くの水沢出身者が二人の仕事を支え、政治、経済、文化の面からバックアップした。-